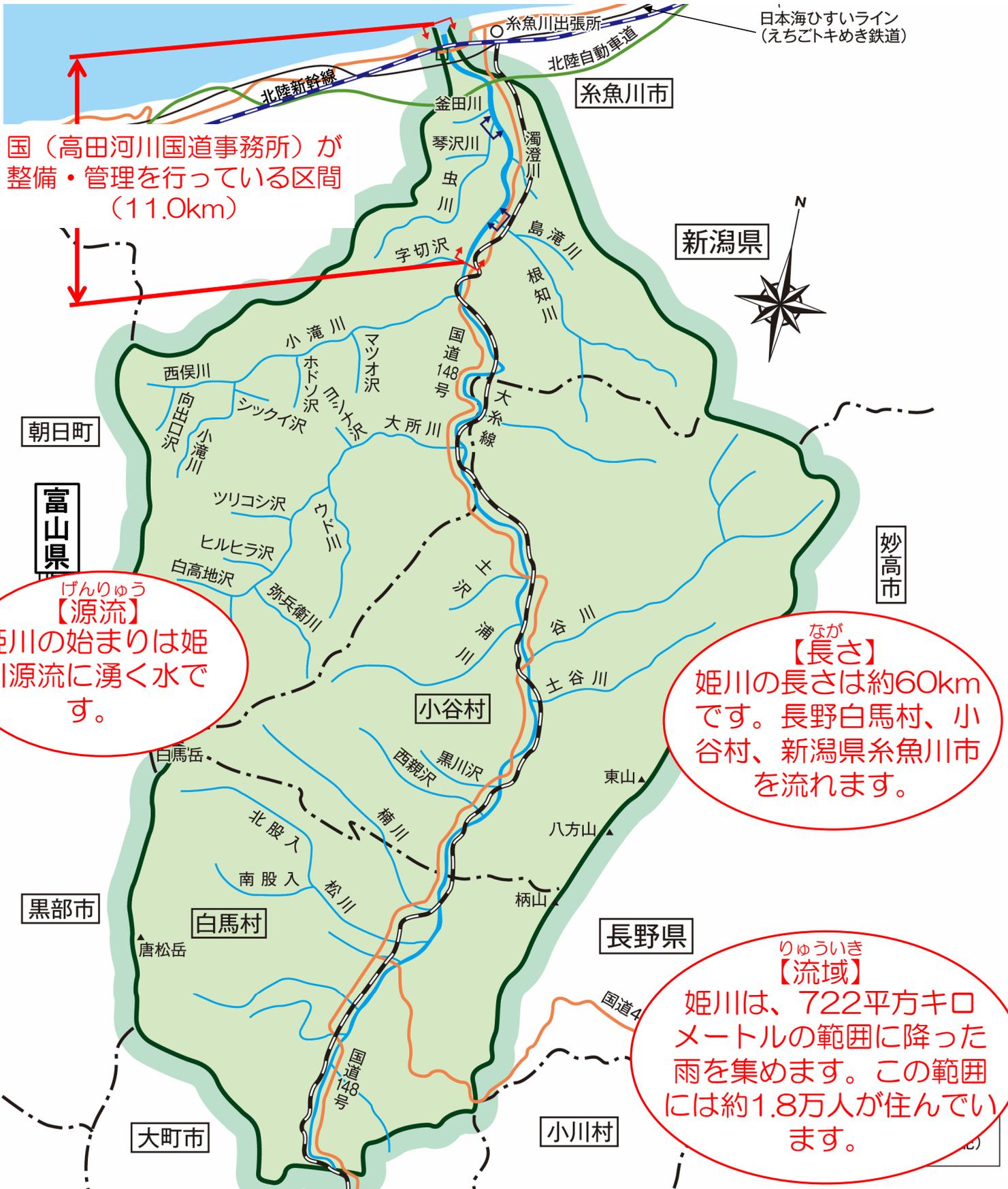


姫川の流域図

姫川は、長野県白馬村にある姫川源流から糸魚川市までを流れる約60kmの大川です。このうち人口、資産の集中する河口から11.0kmを国（高田河川国道事務所）が整備・管理を行っています。



国（高田河川国道事務所）が整備・管理を行っている区間（11.0km）

げんりゅう
【源流】
姫川の始まりは姫川源流に湧く水です。

なが
【長さ】
姫川の長さは約60kmです。長野白馬村、小谷村、新潟県糸魚川市を流れます。

りゅういき
【流域】
姫川は、722平方キロメートルの範囲に降った雨を集めます。この範囲には約1.8万人が住んでいます。

姫川の洪水と河川整備の歴史

●昭和40年 7月 台風による7.13洪水
 (被害：家屋2戸)

■昭和44年 姫川水系を一級河川指定、建設省 高田工事事務所が管理を開始

管理区間 姫川0.0km~11.0km

●昭和44年 8月 前線集中豪雨(水害)
 (被害：床上浸水120戸、床下浸水205戸)

●昭和56年 8月 台風15号(水害)
 (被害：床上浸水6戸、床下浸水39戸)

●平成 7年 7月 梅雨前線(水害・土砂災害)
 (被害：家屋全半壊38戸、床上浸水48戸、床下浸水195戸)



●昭和44年8月洪水(橋梁流失)糸魚川市大野地区



●平成7年7月洪水(浸水水害)糸魚川市平岩地区



●平成7年7月洪水(堤防決壊)糸魚川市上刈地区



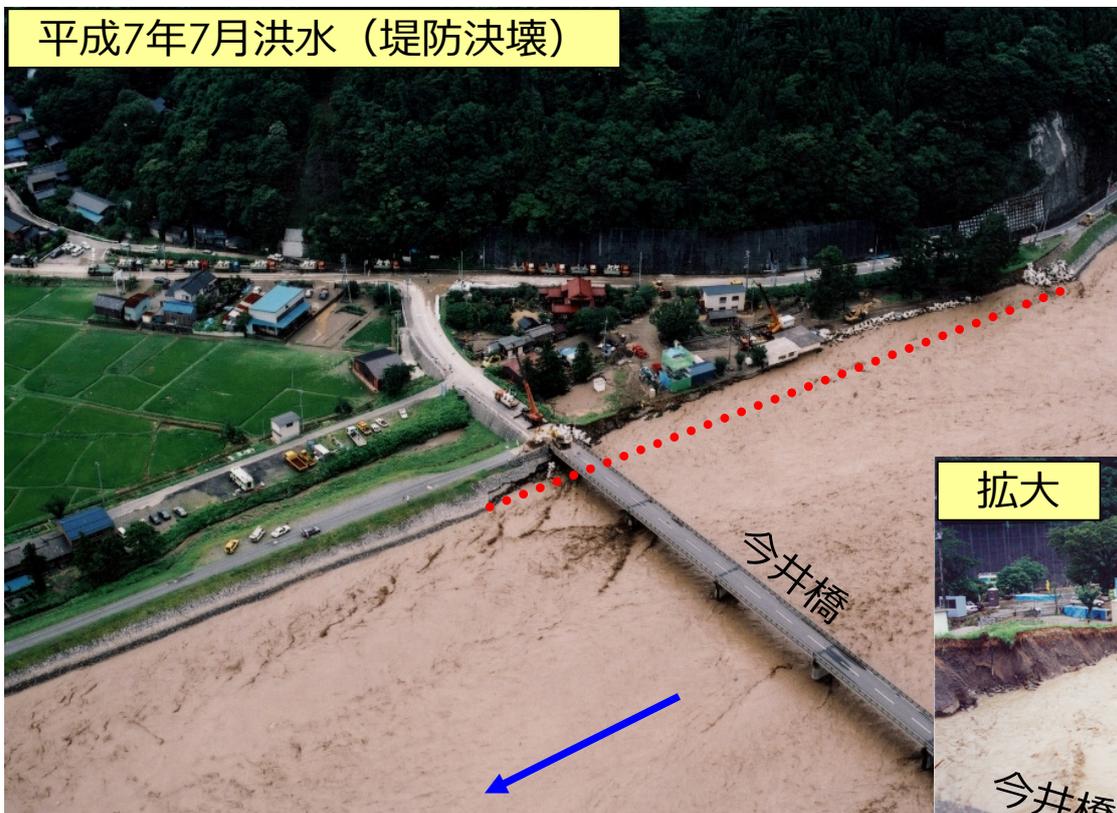
■平成 7年 姫川災害復旧助成事業等
 ・新潟県及び長野県により、延長約16kmの区間において、災害復旧助成事業や災害復旧事業などにより、姫川に大量に堆積している土砂を掘削したり、河岸が削られないよう護岸を設置したりする等、洪水によるはん濫を防ぐための対策が行われました。

平成15年 国土交通省 高田河川国道事務所へ名称変更

姫川の整備による浸水被害軽減効果

平成7年7月洪水では、上流から流出した土砂が混じった激しい流れにより堤防が壊れました。高田河川国道事務所では、激しい流れでも堤防が壊れにくくなるよう、堤防の川側に護岸工や根固工を設置し、堤防を強化しています。

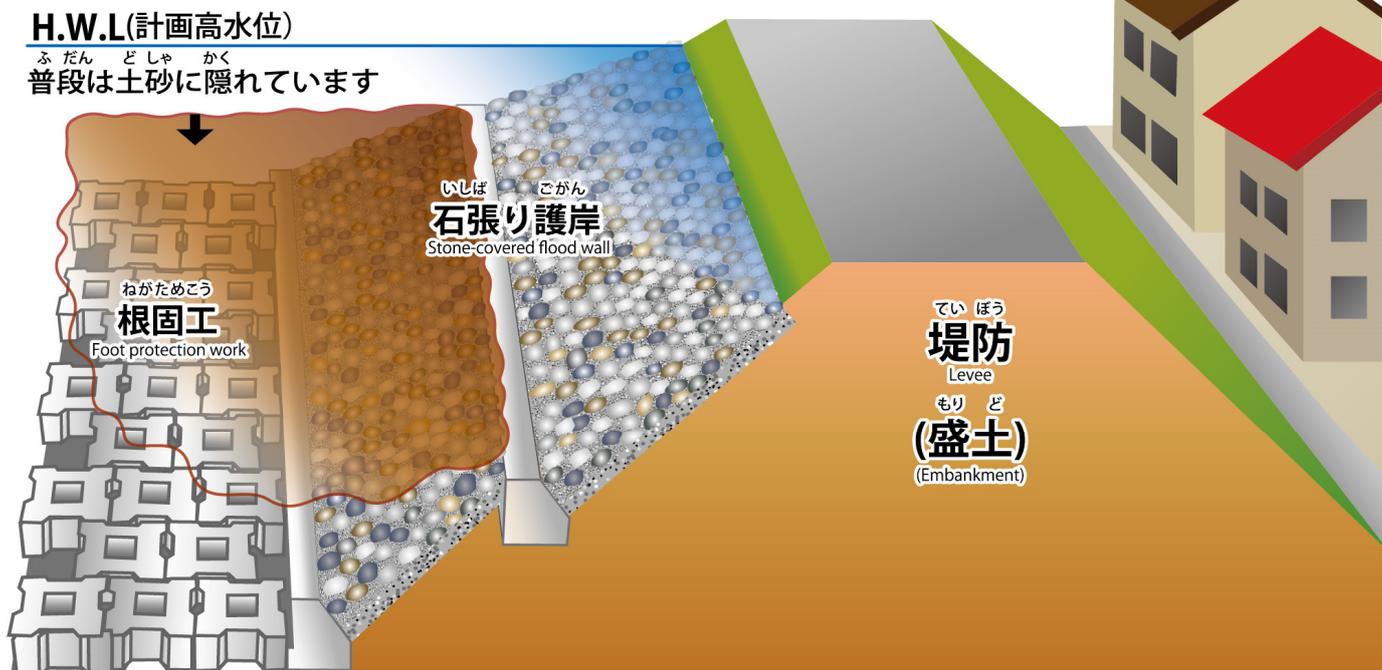
平成7年7月洪水（堤防決壊）



姫川（糸魚川市上刈）

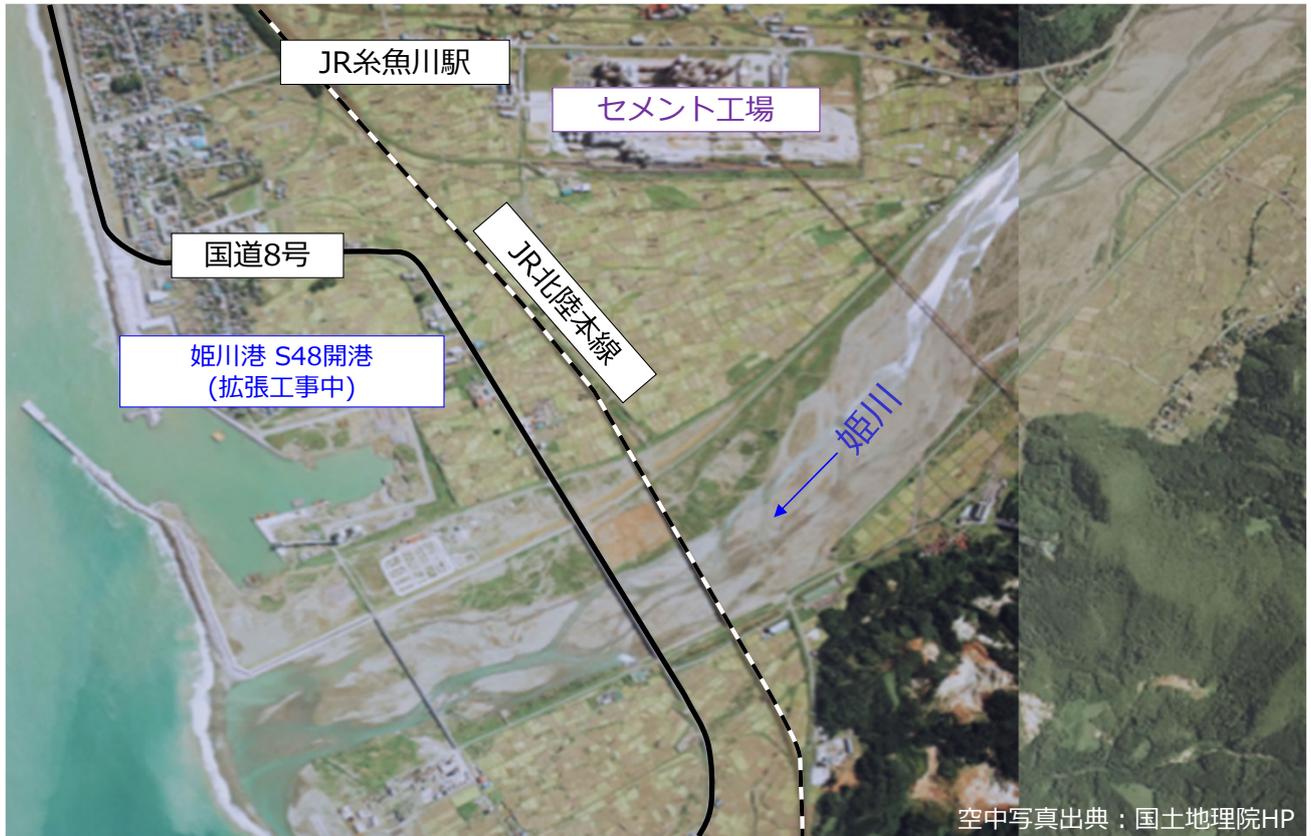


姫川の堤防は、コンクリートブロックの基礎（根固工）と石張り（石張り護岸）で強化されています。

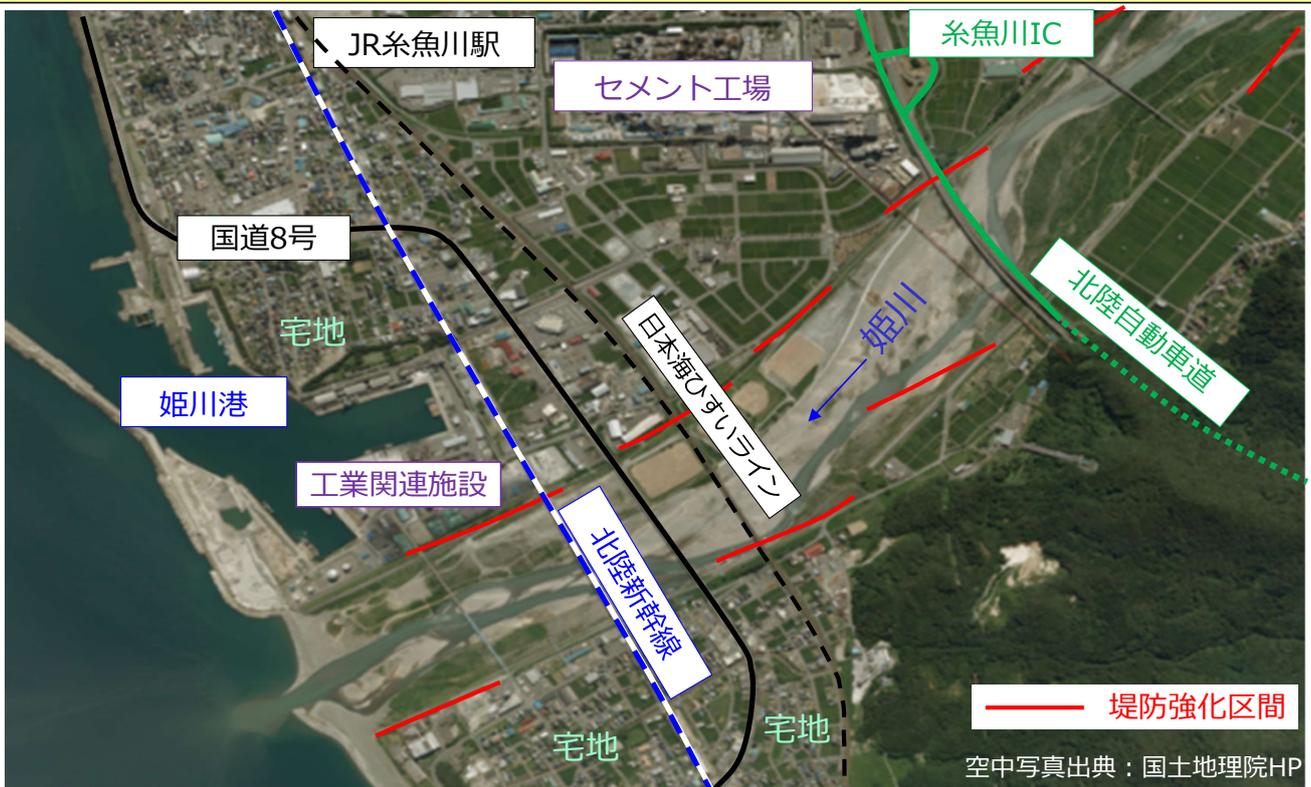


姫川の整備による地域資産の拡大

【昭和51年(1976)】 姫川の周りは、ほとんど水田や畑でした。



【平成22年(2010)】 河川整備により、洪水に対する安全度が高まったため、姫川の周辺には住宅や工場が広がったほか、平成27年3月に開業した北陸新幹線をはじめとする交通インフラの整備が進みました。



姫川と共にある豊かな暮らし



ソフトボール大会（糸魚川市寺島）



堤防の桜（糸魚川市大野）



川の学習（糸魚川市大野）



ダイサギ



姫川ふれあい石公園（糸魚川市寺島）



河口の夕暮れ（糸魚川市寺島）

洪水被害を減らすための訓練の実施

高田河川国道事務所では、関川・姫川の洪水に備え、地元消防団や地域住民などが参加しての水防訓練を実施しています。また、排水ポンプ車や夜間活動を支援するための照明車も配備しています。



堤防が削れるのを防ぐためのシート張工



水が堤防を越えるのを防ぐ積み土のう工



堤防を強い流れから守るための木流し工



堤防からの漏水を弱める月の輪工



災害対策車両（照明車）



災害対策車両（排水ポンプ車）

河川を健全に保つための維持管理

高田河川国道事務所では、堤防、護岸、樋門等の河川管理施設に異常がないか巡視点検し、川を健全に保つための維持管理を実施しています。また、行政など関係機関とともに、河川の美化活動等も行っています。



堤防除草（ラジコン）



施設点検①（堤防損傷確認）



施設点検②（樋管の定期確認）



施設点検③（護岸損傷確認）



出水時の点検



川の清掃活動